長崎市第五次総合計画・前期基本計画

よりよい学習習慣の育成

- 1 学習への構え**
物構え、身構え、心構え
- 2 授業で育てる学び方**
「式見小学びのスタンダード」に沿った授業の積み重ね。
- 3 子どもの学び力を引き出す授業づくり**
「つかむ」段階で、子どもにとって魅力的な教材と出会わせる。

本校の教育目標

四気満ちて笑顔の花咲く学校

めざす児童像

- ・やる気：自ら進んで勉強する子
- ・こん気：粘り強く努力する子
- ・げん気：元気に運動する子
- ・ゆう気：優しく思いやりのある子

よりよい生活習慣

- 1 進んで挨拶**
日々の指導や賞賛、児童会などのボトムアップ型の活動を組み合わせながら継続的に取り組む。
- 2 思いやりのある言動、正しい言葉遣い**
「くん、さん」付けや「ありがとう、ごめんなさい」等、言葉が形に表れる実践を積み重ねる。
- 3 学年を交えた、みんなで外遊び**
縦割り遊びや全員遊びを通じた児童相互の交流を行う。

学力向上の方針と指導の重点

- ① 複式教育に向けた授業実践**
・複式学級研究授業・単式学級研究授業・複式授業において身に付けさせたいスキルの整理
- ② 学校教育全体での取組**
・学力調査の分析と活用（授業改善の方策をまとめる）・「式見小学校学びのスタンダード（学習規律）」の徹底、教室環境の整備
・まなびのタイム（朝学習）の充実・Qubenaの活用・読書指導の充実
- ③ 家庭と連携を図った取組**
・生活リズムノート・家庭学習の手引き

1 質の高い授業を目指して

＜研究テーマ＞
全員で高め合い、「分かった」「できた」を実感できる子どもの育成～複式教育を意識した「たしかめる」過程の工夫を通して～

わかる・できる授業の実践

- ①本時の「めあて」を明確に示し、学習の見通しと到達点を認識させ、それに対応した「まとめ」を行う。
- ②問題解決に向けて既習事項・経験を生かしながら考えることができるための手立て
- ③自分の思いや考えを伝え合う場の設定とその工夫
- ④「書く」「話す」時間の保証
- ⑤机間指導による学習状況の把握と個別指導の充実
- ⑥まなびの跡が残るノート指導
- ⑦式見小スタンダード（学びのきまり・仕方）の徹底

授業を支える基本的な生活習慣や心の育成

- ①生活リズムノートの活用
毎学期始めの2週間、保護者に協力依頼をしながら生活リズムノートを記録し、基本的な生活習慣の育成を図る。
- ②道徳の時間を中心とした「心の教育」の充実

本校児童の実態（学力調査等の結果から）

国語	
1年	○登場人物の気持ちや行動など、内容の大体を捉えている。（1・2年） ○漢字を正しく読むことができる。（2年） ▲自分の思いが明確になるように、文章を書いている。（1・2年）
	算数
2年	○20までの数の系列を理解している。（1・2年） ○繰り上がり繰り下がりのある加減の計算ができる。（2年） ▲加減の計算の正確さや速さに個人差がある。（1・2年） ▲文章問題（求差の場面）の答えを求められることができる。（2年）
	国語
3年	○経験や想像から書くことを見つけ、文章に表す。（3年） ○話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。（3年） ○調べたことをもとに、文章を書く。（4年） ▲場面の様子など、内容の大体を捉えている。（3年） ▲事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（3年） ▲自分の考えと理由や事例を明確にして文章に書く。（4年）
	算数
4年	○グラフを読み取って表に表すことができる。（3年） ○直方体の辺の長さや数を使って、問題を解いている。（3年） ○かけ算の筆算の仕方や、かけ算の決まりを理解している。（4年） ○□を使った文章を表した図の構成を捉えたり、立式したりすることができる。（4年） ▲くり上がりのある加減の計算を理解している。（4年） ▲棒グラフを読み取り、問題を解く。（4年）
	国語
5年	○目的に応じて、自分が聞きたいことの中心を明確にして、確かめたいことを質問する。（5年） ○読み手として必要な情報を適切に見付け、選び出す。（5年） ○与えられた情報を統合し、条件に合わせて文章に表すことができる。（6年） ○自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（6年） ▲漢字を文の中で正しく書く。（5・6年） ▲文の中における主語と述語、修飾と被修飾の関係を捉える。（5・6年）
	算数
6年	○正三角形や二等辺三角形の性質を理解している。（5年） ○数量の関係に着目し、式に表したり、式に表されたりしている関係を考察する。（5・6年） ○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。（6年） ▲結合法則や分配法則の考えを用いて求めることができる。（5年） ▲球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え立方体の体積を求める。（6年） ▲速さの意味について理解している。（6年）

○…良かった点 ▲…課題となった点（重点指導項目）

2 学習内容の定着と習熟

基礎・基本の徹底

- ① まなびのタイム（朝学習：週2回）の活用による基礎基本の学力の定着
- ② 10分間読書（朝：週2）
- ③ 定期的なテストの実施による定着・習熟の検証
- ④ 家庭学習の習慣化
・毎日：音読・漢字・計算
・実態に応じた課題

苦手分野の克服

- ① 学力調査の分析・考察し、授業改善のポイントをまとめて職員間で共有
- ② 家庭学習での自主学習の奨励
- ③ 玖島の杜・あじさいBOX等を活用した学習
- ④ Qubenaを用いた個別の指導

【達成目標】

課題となった内容の正答率の2ポイント上昇を目指す。（年度末に学力調査の問題を再活用し、検証する。）